

日墨友好通商航海条約

— その締結過程と史的意義 —

柳 沼 孝一郎
(神奈川大学)

<はじめに>

開国日本にとり対外政策上最大課題のひとつは、世界列国に強要された安政5カ国条約を母体とした不平等条約の改定すなわち治外法権撤廃及び関税自主権の回復であった。近代化を鑑み条約改正を不可欠条件と認識し、かかる至上目標の下に諸列国と折衝に臨むも進展をみず中断・延期され、結果、国家事業としてのそれは途絶を余儀なくされた。かかる情勢下に宿願であった平等条約が日墨条約として実現された。日墨関係は、鎖国施政前の日本とマニラ経由ヌエバ・エスパーニャの交渉関係、及び新制日本と独立後の共和国メキシコとのすなわち日墨条約に始まりメキシコ革命動乱期の中で展開された外交関係とに時代的に二分されるが、前者をして後者を胎動させた言わば後者は前者の上に成立する関係と言える。日墨交渉史を捉えんとする時いずれも看過できない点であるが、本報告は締結百周年を迎えるにあたり、当該条約の締結経過、その特徴及び史的意義を考察せんとするひとつの試みである。

1. <締結過程>

条約案は導因となったメキシコ金星天体観測隊の日本滞在報告書^①及び17世紀における日墨政治・通商関係の研究書「Noticia Histórica de las Relaciones Políticas y Comerciales entre México y el Japon, Durante el Siglo XVII,」^②と米国元大統領グラントの仲介斡旋を背景に、対独・伊・白通商条約を通じ経済発展の促進化を計るメキシコ^③のマティアス・ロメロ Matías Romero 在米公使と在米臨時代理公使高平小五郎の間で発生した^④。同案は井上外務卿期の条約改正会議無期延期に伴い立ち消えに終わったが、再度ロメロ公使より前メキシコ駐在公使であった在日ベルギー公使ジョージ・ナイトを

介し締結申し出があり、^⑤ 伊藤首相兼外相期に日墨暫定条約調印の覚書がワシントンにて交換された。^⑥ ついで不平等条約完全撤廃を掲げる大隈外務卿は、同覚書を軸に陸奥在米公使を介しロメロ公使と対墨折衝に着手、こうして締結交渉が再開された。一連の両国政府交渉の末、日本国法権への服従を条件とする対墨国民への日本内地開放の提唱^⑦ が決め手となり、かくして友好通商航海条約 *Tratado de Amistad, Comercio y Navegación* が締結された。^⑧

2. < 条約内容とその特徴 >

本条約は11条から成る本文と別途調印された「機密特別條款」 *Artículo Secreto y Seporado*^⑨ の2部で構成されているが、就中、メキシコ国民に対し日本の内地開放を明確化する第4条、及び列強諸国が共同歩調を取り連合して墨国に付与する上記特権を要求してきた場合を想定し「メキシコ国人の享有せる特典を取り消し以て（列強の要求）根拠を絶つ」^⑩ を目的として日本側からの一方的な予告を以て第4条の特権を解約し得ることを約定する特別條款は対をなすもので、同条約の最重要点にしてその特徴とされる。すなわち第4条は条約改正を有利且つ迅速に進展させんが為に許与された特典であって、日墨条約は条約改正早期実現の実験台として成功を収めた条約であり、対列強国との改正交渉において試金石として機能した条約であったと言えよう。

3. < 史的意義 >

当条約は、開国後の急進的近代化を計る日本と、独立後の動揺期を経て共和国復興期ののち国内経済活動の活性化・財政再建等を以て近代化を展開させていたメキシコ両国の同一時期的な史的背景と発展過程の中で推進された。また相互に治外法権と関税権の拘束を認めず、相互に内地開放を承認するという日本が締結しえた最初の完全なる相互対等主義に立脚した完全平等条約にして画期的な条約であった。

同時に、終始日本を同等に独立国と認め、本条約の実現化にその労を惜しむことのなかったメキシコ国の姿勢・態度は高く評価されてよい。日本は当該条約を足掛かりに順次平等条約を樹立させることを得て、これを契機に、ほどなくして国際政治舞台に列席するに至ったのであった。



- ① " Viaje de la Comisión Astronómica al Japón, 1876. " 大垣貴志郎・坂東省次訳「ディアス・コバルビアス日本旅行記」, 雄松堂, 新異国叢書 7, 1983. 本書は当時の日本国情を多岐に亘り観察報告し, 日本の全体像をメキシコに紹介したその意義・業績は大きい。
- ② Angel Nuñez Ortega 著。ヌニェス・オルテガは Porfirio Díaz 第 1 次, Manuel González 両政権を通じ一貫して外交官として欧州諸国に勤務。歴史家でもあり, 本書は 1875 年ベルリンで草稿完成, 1879 年メキシコ市にて刊行される。複製版として, Noticia …… , Archivo Historico Diplomático Mexicano, Num. 2, Publicaciones de la Secretaría de la Relaciones Exteriores, México, D. F., 1923. がある。
- ③ José López-Portillo y Rojas, " Elevación y Caída de Porfirio Díaz, " Editorial Porrúa, México, 1975. pp. 154 ~ 156, pp. 187 ~ 190.
- ④ 両公使は米国防務長官との面会時に偶然に応接室で邂逅し会談の機会を得, 17 世紀における両国交際につき欲談した。後日ロメロ公使は発刊なつたばかりの前述書 " Noticia …… " を高平臨時代理公使に提示しここに条約案が醸成されていった。

明治 15 年 10 月 13 日付高平発井上外務卿宛第 42 号電, 外務省「日本外交文書」(以下 NGB と略), 明治 15 年 11 月至明治 23 年 4 月, 事項 3, 日本国及墨西哥合衆国間修好通商条約締結ニ関スル件 p. 115 - 116.

1882 年 4 月 15 日, 4 月 18 日, 5 月 19 日, 9 月 29 日付 ロメロ発イグナシオ・マリスカル Ignacio Mariscal 外務長官宛電文. Ma. Elena Ota Mishima, 「19 世紀におけるメキシコと日本～メキシコの外交政策と日本の主権の確立～2, メキシコ外交古文書収録, メキシコ市, 外務省, 1976. p. 27-31.

- ⑤ 前記 NGB, p. 114.
- ⑥ 同 上 p. 114.

1888 年(明治 21 年) 1 月 14 日付 伊藤博文発ベルギー王国特命全権公使ナイト宛電書, 前記 Ma. Elena Ota, p. 47 - 49.

- ⑦ 明治 21 年 11 月 8 日付 大隈外務大臣より黒田総理大臣宛, 墨国トノ条約案ニ機密特別條款附加ニ関スル閣議案, 前記 NGB, p. 113.
- ⑧ 陸奥宗光, ロメロ両特命全権公使間で明治 21 年 11 月 30 日ワシントンにおい

て日、西、英文に調印、明治22年1月29日批准、同年6月6日ワシントンにて批准書交換、同年7月18日公布。本条約の日、英文は前記 NGB, p.131-138 に、西文は Senado de la Republica, TRATADOS RATIFICADOS Y CONVENIOS EJECTIVOS CELEBRADOS POR MEXICO, Tomo II (1884-1889), pp. 179-184 に掲載されている。

⑨ 前記 NGB, p. 138 - 139.

Senado …… , ob, cit. pp. 184-185.

⑩ 前掲書大隈外務大臣よりの閣議案、前記 NGB, p. 114.

<参考文献>

外務省監修、日米通信社編「日本外交百年小史」、山田書房 1954.

信夫清三郎編「日本外交史」、毎日新聞社 1974.

鹿島守之助「日本外交史」、鹿島研究所出版会 1965.

井上清「条約改正 — 明治の民族問題 —」、岩波新書 1955.

入江昭「日本の外交」、中公新書 1966.

石井孝「日本開国史」、吉川弘文館 1972.

Estañol, Jorge Vera, " Historia de la Revolución Mexicana—
Orígenes y resultados — " Editorial Porrúa, México, 1967.

Saenz, Aaron, " La política internacional de la Revolución, "
Fondo de Cultura Económica, México, 1961.

Vázquez, Modesto Seara. " La Política Exterior de México—
La práctica de México en el derecho internacional—, "
Editorial Esfinge, Mexico, 1969.

Roeder, Ralph. " Hacia el México Moderno : Porfirio Díaz, "
Fondo …… , México, 1973.

Semo, Enrique. " México—un pueblo en la historia, " Universidad
Autónoma de Puebla, Editorial Nueva Imagen, México, 1981.

追記：本稿はラテン・アメリカ政経学会第23回全国大会(1986年11月8日・9日、京都外国語大学)において報告した要旨である。大会当日コメンテーターの大垣先生(京都外大)、国本先生(中央大)はじめ諸先生方から貴重なコメントを戴きここに深く謝意を表したい。